

事業実施報告

開催日	令和4年9月23日（金）		
事業名	テンパーク・絵本の森（秋編）		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	19家族56名
対象	幼児から小学校低学年を含む親子		
関係機関名			

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

〔事業の内容〕

午前日程で、絵本専門士による絵本の読み聞かせ、岩手県環境アドバイザーによる自然観察・図鑑作りを行った。図鑑完成後、参加者が交流する時間を設定した。雨天のため、曲り家での活動が中心となった。

絵本の読み聞かせでは、曲り家の板間、座敷を広く使い、絵本専門士が、秋に関する絵本『とべバツタ』や、後半の図鑑づくりで行う葉のこすり出しにつながる内容の『やさいのおなか』『やさいのせなか』などを読み聞かせた。また、閉会行事では『たったひとつのドングリが』の読み聞かせを行った。子どもたちが絵本の前に集まって、絵本の世界に引き込まれていた。

自然観察・図鑑づくりでは、環境アドバイザーの指導のもと、自然・植物の大切さ、図鑑作成の手順を学んだ。その後、森に出て、樹木の中の音を2人用聴診器で聞いたり、葉っぱや木の実を採取したりした。採取した葉をこすり出し、気付いたことを記入して自分だけの図鑑を作成した。失敗しても何度でもやり直せるというよさもあり、何ページも作成し、大きさ、形が様々な葉をたくさん貼り付けた図鑑を作成した児童が多く見られた。

ワークショップでは、小枝えんぴつを作った。ハンドドリルや小刀の使い方に苦戦しながらも、保護者と協力して自分のお気に入りの鉛筆を作ることができた。温かい声かけで、子どもたちの頑張りや気付きをお互いに認め合う活動ができていた。

今回、67家族の応募があった。1組のキャンセルがあったため、19家族（56名）の参加となった。

〔成果〕

・両講師との事前打ち合わせを2回行うことで、必要な物品、曲り家周辺の設備や木々、草花の状況を把握できた。秋に関係する絵本、自然観察・図鑑作りの内容につながる絵本を選書してもらえたことは、絵本専門士に協力いただいた大きな成果である。秋や自然に関する絵本、ハンドブック等を展示したところ、絵本を親子で手に取って読む姿があちこちで見られ、本に親しむ良い機会になったと思われる。

・活動の後半の参加者の交流の場面では、葉っぱ図鑑や小枝えんぴつなどをお互いに褒め合う雰囲気が出ていた。子どもの自己肯定感の高まりにつながったと思われる。

・事業後のアンケートでは、「絵本や自然に親しむことができた。」「絵本の読み聞かせで、子どもが絵本の世界に引き込まれていました。家でもぜひ読んであげたいと思います。」「自然で遊ぶことの楽しさを知ることができました。自宅でもやってみたいと思います。」など肯定的な意見を得た。また、満足度に関する4項目全てにおいて、「満足」「やや満足」を合わせて100%であった。今回の事業では、本に親しみ、自然の楽しさ、面白さを親子で味わうことができたと思われる。

〔課題〕

・実施時期について、まだ紅葉が進んでおらず、緑色の葉ばかりであった。もう2～3週間遅い時期に開催できれば、秋編という名にふさわしい雰囲気になると思われる。

・読み聞かせの際、囲炉裏のくぼみの中に入って聞いている子どもがいた。自在鉤につるされている南部鉄瓶にぶつかり、大きく揺れる場面があったため、事前に注意する必要がある。

・活動中、ボランティアの子どもたちへの関わりが不足していた。どの場面ではどのような声かけが必要かを事前打ち合わせの際に確認することで、ボランティアの積極的な助言を促したい。

状況写真



「絵本専門士による読み聞かせ」



「環境アドバイザーによる自然観察の導入」「木の中を流れる水の音を聞く親子」



「落ち葉、木の実の採取」



「葉をこすり出して葉っぱ図鑑作り」



「小枝えんぴつ作り」